

も血清稀釋倍數3倍以上に於て之を證明せるもの13名なりき。喰菌作用と凝集反應との關係をみるに注射後抗體の増加せるものに於ては一般に喰菌作用の昂進せるを認めたり。喰菌作用は使用菌種に依りて異り、 $T_{1/2}$ 菌を用ひたる場合に於ては H. 901 菌を用ひたる場合に比し、注射前も注射後も喰菌され難きも Vi 抗體を證明せるものに於ては喰菌力の昂進せるを認めたり。

追 加

平 野 憲 正

従來の腸チフスワクチンの注射によつては Vi 抗體の產生がない。併しリンゲルワクチンは Vi 抗原を有つて居るので本抗體が產生される。人體に於ける Vi 抗體が腸チフス菌の感染防禦に如何なる役割を演ずるかは不明であるが、腸チフスの恢復期には必ず Vi 抗體が證明されることから考察し、本抗體產生はワクチンの効果を判定する上に於て相當意味があるだらうと思ふ。

12. 細菌鞭毛の實驗學的研究 (一新鍍銀法に依る)

藤田生物組織研究所

市 川 民 慈 子

細菌學の領域に於て鞭毛の檢出法が至難の業に屬する事は斯道に携はる者の等しく嘆ずる所なり。由來細菌鞭毛の檢出法に2途あり。1は色素を以つて染色し他は銀に依りて檢出するにあり。前者は Koch 以來 Löffler にその源を發し後者は Zettnow 一派の手法に倣ふ。兩者を比較するに色素法は到底鍍銀法を凌駕するの力なく後者の判然たる黒色の銀効果は先づもつて鞭毛檢出の王座を占むるに似たり。然れども惜むらくは Mediüm の汚染 (Mittfärben) する事にあり。もし之の Störendbild たる銀の表面沈着を除く事を得ば將に鍍銀法の最大効果を發揮するものといふべし。演者は當研究所に於て細菌鞭毛の鍍銀法に手を染むる事久し。此處に當研究所獨特の一新鍍銀法を公表しひいては細菌鞭毛の實驗學的成績を發表せんとす。抑々此の一新鍍銀法なるものは去年 (昭和 16 年第 8 回東京女醫學會總會) の本學會に於て發表せし血球鍍銀法の根本原理と其の軌を一つにせるものにして従來組織學者 (又は細菌學者) の慣用せる硝酸銀の單純水様液に代ふるに、ゲラチンを加味せる膠質銀液を使用するにあり。特に細菌鞭毛の檢出に當りては該細菌の培養時期或ひは釣菌手技特に媒染液の効果等に重點を置き稀薄タンニン液中に生菌を落し、媒染液としては Zettnow 氏一派のタンニン酸吐酒石液を用ひ純酒精通過法或ひは、アンモニヤゲラチン銀の前處置、ゲラチン銀、ゲラチンヒドロヒノン液の後處置、ひいてはカメレオン液を以てする減力法等に依り確實鮮明なる鞭毛鍍銀法の完成をみるを得たり。演者は百尺桿頭一步を進め細菌鞭毛の實驗的研究に分野を進め生菌鞭毛に及ぼす各種の實驗學的要約の効果に就きて本研究を行ひしものなり。之が生物學的論據の詳述は他日を期し、今回は實驗標本を供覽し以て同好の士の御高評を乞はんとするものなり。

13. 犬十二指腸蟲卵と犬糞便内好氣性菌の各種藥品に對する抵抗力の比較

東京女子醫學專門學校寄生蟲學教室

中 村 絹 子

十二指腸蟲の生物學的方面に就きての研究は、無菌的に培養せられたる蟲體に就きて行はるべきなり。然る